

## 「自然災害のこわさ」

奈良県 葛城市立新庄小学校 4年 <sup>やまもと れな</sup>山本 玲奈

最近、テレビのニュースや新聞の記事を見て、日本各地ではげしい雨による土砂崩れや河川の氾濫でたくさんの被害が相次いでいるのを見ました。それを見た私は、もし、自分の住んでいる町にもそんな被害にあったら、いったいどうなってしまうのだろうと考えると不安でこわくなってしまいました。

テレビの天気予報で、気象庁は「これまでに経験のないような大雨」として警戒を呼びかけていました。今年は、異常気象とも思える暑さや豪雨で人間の生活を壊そうとしているように感じました。各地で被害にあわれた方たちは、住む家が倒壊したり、道路が寸断され生活ができなくなりました。また、この災害でお亡くなりになった人たちもいれば、行方不明でまだ見つかっていない人たちもいます。なぜこのような自然災害が起ってしまうのでしょうか。

自然災害には、いろいろ種類があって、とつぜんおそってくる地震もあれば、何日も前から、危険を予告してくれる台風などがあります。その自然災害が起こる原因の一つは、自然環境に問題があるような気がします。日本は、大昔緑が豊かな国と言われていたそうです。しかし、人間は、その自然をこわし、工業や大都会につくりかえてしまいました。エネルギーや資源のろう費がさまざまな環境にえいきょうをあたえているということを、以前テレビの番組で知りました。エネルギーが大量に消費されると、廃熱がたまって、気温が上がってしまうそうです。だから、自然の森林がなくなってしまうと、森林がこの気温や二酸化炭素を吸収できなくなり、地球上の私たちの生活に支障をあたえて自然災害が起ってしまったりするのかもしれない。人間が住みよい環境につくりかえてしまったばかりに、自然がすくなくなり、地球の温暖化がすすみ、自然環境が壊れかけてしまっているということに、私は、胸が痛くなります。このままだといつか人間の住む場所もなくなり、私たちの未来はどうなってしまうだろう。そして、自然環境が私たちの生活をささえてくれる大切な役目をしてくれているんだということに、もっと人間が気づかなくてはいけないと思います。自然災害がおこるのは、私たち人間にはやくそれを気づいてほしいということをつたえたいのかもしれない。

これからも、自然災害は、いつくるか、どこにくるかは、わからないけれど、おそれてばかりいないで、すこしでも大きな被害を出さないように考えなくては、いけないと思います。そして私たちがもっと自然に興味をもって、大切に守ることが必要だということを知りました。